

神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会		
開催日時	令和8年2月17日(火)		
開催場所	神奈川県立麻生支援学校会議室		
(役職名) 出席者	(会長) 新井委員 (副会長)岡本委員 (委員) 久保田委員、大崎委員、佐口委員、鈴木委員 <学校職員> (副校長) 山岸(教頭) 石上、田部(事務長) 江藤 (総括教諭) 栗澤、風間、鈴木、土肥、渡邊、有年、小川		
欠席者	品川委員、青柳委員、谷委員、有賀委員		
問合せ先	所属名：麻生支援学校、担当者名：石上 卓矢 電話番号：044-980-4855 ファックス番号：044-986-2517		
下欄に掲載するもの	・ 議事録	議事概要とした理由	
会議経過	1 開会 2 挨拶(麻生支援学校 鈴木校長) 3 <学校評価部会> (1) 山岸副校長より、最終報告について資料に沿って説明。 視点1：児童・生徒の実態を把握し、それをもとに個別教育計画を作成。職員間で情報共有や研究を通してより良い授業を作っていく取り組みを行った。アンケートでは保護者、職員ともに92、86%とよい評価。 ICT機器の活用については、教員のスキルの向上を図る、また家庭学習等で活用したり、実態に合わせたアプリを授業で使用したりすることなど取り組んだ。アンケートでは、保護者、教員で66、68%と「わからない」の割合がある程度あった。 視点2：交流や、それぞれ発表や作品をお互いに見合うなどお互いに相手を認めたり、大切にしたりすることと、SNSやネットリテラシーについて研修や授業を通して日常生活に役立つ学習を行った。アンケートでは、保護者、教員で91,92%、67,57%。SNS、ネットリテラシー等の学習は、高等部を対象に行っていたこともあり、「わからない」と回答した割合がある程度多くあった。 視点3：☆柿祭、アートコース発表会で地域の方と交流を行うこと、学部ごとに進路学習会、施設見学会の実施により達成感や意欲の向上、自立と社会参加のイメージを作ることにつなげた。アンケートでは、保護者、教員で90,89% 95,78%。 視点4：地域での清掃活動、高校との交流について実績を積み重ねてきた。20周年記念でも多くの地域の方に協力いただき児童生徒		

と交流をした。アンケートでは、保護者、教員で70,66%、80,81%。比較的良い評価の一方、「わからない」割合もそれぞれ多くあった。

視点5：児童・生徒へのていねいなかわりのスタンダードについては、各学部の取り組みと、違う学部等でグループを作り職員間で子どもについての話し合いを行った。保護者との話し合いは、設定が難しく実施できなかったため、次年度への課題とする。アンケートでは、保護者、教員で85,87%。
災害時、非常時の対応については、実際に近い形での避難訓練や、スクールバス乗務員のAED研修、位置情報システムの導入など対応力、情報提供等を行った。アンケートでは、保護者、教員で87,79%とよい評価であった。

(2) (1) について御意見・御質問 (○委員、●学校関係者)

○データの集計だけでなく、コメントがありわかりやすくよかった。「わからない」という評価をされているところを掘っていかないといけない。視点を決めて取り組むと次につながると思う。

●目標設定を全校対象になるよう考えていきたい。SNS となると対象が絞られてしまうが考えていきたい。

○R7年度の保護者向けアンケートの質問は毎年同じ文章なのか。「わからない」を見ていると質問の中身が2〜3つある。そうするとわかりづらくなる。3つの中身のどこかが「わからない」となるのだと思われる。3つを分けてみたらどうか。自身のところは毎年同じ文章で評価をしているので前年度と比較しやすい。
また、今年度の教育活動について校長が今感じていることをお聞きしたい。

●今年度は職員アンケートの回答率を上げることに取り組み、多くの職員の意見がもらえてよかった。「わからない」という回答については学部よっての取り組みの濃淡がある。質問の仕方の工夫は必要と感じている。ICTの活用には教職員も悩んでいる。たくさんのICT機器があり、それぞれの学部で様々な取り組みはしている。全校での共有する仕組みづくりが必要と感じている。研究等での共有取り組みが始まっている。来年度に期待したい。

○iPadを子どもが使用しているが、教員はどのようにデータを集約しているのか。学んだ内容はどのように共有をしているのか。データとして学習状況を取っているのか。個々のデータを共有しているのか。子どもがどこまで理解していて、どういう状況下で使っているのか、使い方によってどこまで伸びたのかを知りたい。できているのかどうか不安になる。「できている」の視点に整合性が取れているのかがわからない。学校教育としてそこまでやってほしい。

また、「クラスの保護者と話す機会があるとよい。」とあるが、なかなか難しい。以前は各クラス懇談会を行っていた。PTAの学年係が茶話会を行っていたがコロナでなくなった。参加率が悪く、クラスの保護者と話すのは難しい。担任一人と保護者など学校主導でない設定が難しい。保護者だけだと食事会になってしまう。授業参観の時に設定すると親の意見が聞けるのではないか。横のつながりはコロナで切れてしまった。立ち戻れない。復活させるかは学校で考えていただき、学校主導で行っていただかないと開催は難しい。

- どの程度できたかは一緒にアプリ見ていただいているがデータとしてなどどのように伝えていくのか情報担当と相談したい。

学校教育計画最終報告等について承認

4 <切れ目ない支援部会>

(1)「つながる・ひろがるあさおプロジェクト」の5つの視点について、2～3学期中に進めてきた取り組みを総括教諭より説明。

(2)意見交換（○委員、●学校関係者）

○タブレットの運用・活用など、県のガイドラインがあるのか。学校ごとの取り決めなのか。

- 端末自体は一定数配備されている。分教室は一人一台端末以前にスレートPCが配備され、情報にたけた教職員がいる。小学校や中学校のような活用はできている。本校の小中は個々に応じたアプリを使っている。どのように評価していきフィードバックしていくのか、個別教育計画への反映は課題である。

○タブレットの活用は学校によって使い方が違うのであれば、他校のものを共有することで底上げになるのでは。タブレット以外にも情報を共有してはいかがか。

- 活用についてはICT支援員が来校し、教員の相談に乗ってもらうようになっている。タブレットの活用は行っているが共有は課題になっている。中身の運用についての研修を総合教育センターでは企画するようになってきている。研修内容等をいかに共有していくのが課題である。

○年に1回ではないアセスメントを実施することができたとのこと。アセスメントからどう展開していくのが醍醐味であり、それを教員間でどう伝えていくのか。学年が変わるところにその前段階でどうだったのか、足し算ばかりは負担以外何物でもない。交流会のような時間を設定すれば若い先生方が救われるのではないか。アセスメントは基板として大事だがそれがすべてではない。

○ノーマルアセスメントとは？一人一台端末を使ったエピソードを教えてください。

- B部門はNCプログラム、太田ステージ。A部門はSスケール、MEPAを使用している。

- 端末を使ったエピソードとしてB部門小学部では興味を持たそうと取り組んだ。なぞると何かが出てくるなど文字への興味を持つきっかけになった。

○事例を基にしているのが良い。それが根底。この学校で経験された具体的な事例となれば先生方に承認されやすい。このような事例は否定的になりがちなので好事例を出し、プラスのところを表現してほしい。それが子どもたちの主体性につながってくる。

○「繰り返し」という言葉が出てくるが、飽きるのは教員の方で、子ども

たちは飽きていない。飽きていない理由を考えてほしい。「繰り返し」というのがキーワードだと思っている。

5 <学校設置部会> (○委員、●学校関係者)

①スクールバス地域救援部会

●GPSの活用について。保護者もだいぶ使い慣れてきている。精度の向上が必要かと思われる部分もあるが、遅延の通知も速やかに行うことができている。

SB介助員不足について。募集をかけたものに手を挙げていただいた方がいる。介助員の代わりに教員が乗車する日も減っている。

スクールバス運行時の緊急対応訓練について。児童生徒によっては往復で2時間近く乗車している方もいて時間的にもリスクが高い。次年度は実際にバスの非常口を開いてみて、児童・生徒をそこから避難させる訓練ができると良いと思っている。

防災パートナーシップについて。元石川高校とは協定を結んでいるが、次年度バスルートが大幅に変わることで、協定を結ぶ場所の見直しを図っている。

○川崎市では学校の校庭や体育館が広域避難場所として設定されているが、178か所ある避難場所の中で自家発電があり、冷暖房施設がある場所は現在7か所である。市は4年間で順次設置を進めていく方向。

○発電機や防災関連の施設設備について、教員が実際に稼働させてみる訓練を年間のどこかでやることも必要である。

●次年度設定したい。

○地域にいる防災士の方との意見交換も有意義ではないか。

●検討する。

②丁寧なかかわりのスタンダード部会

●夏休みに職員同士の話し合いを行った。和気あいあいとした雰囲気の中で、日頃の指導のことや生徒の行動について話題にし、教員同士の交流を図った。

●管理職面談時に「丁寧なかかわりのスタンダード」について話題にした。

●PTAのイベント時、参加者にアンケートを実施した。

○20周年記念行事で来校した際、生徒の作品のタイトルをつける活動があったが、他者をつながることの大切さを改めて実感した。「あいさつ」の大切さについても。

スタンダードの評価は難しい。「あいさつができるようになった」等良いところを探して具体的に評価するとよい。

ワールドカフェの形式で気軽に話をする中で、お互いを知ることができる。

●評価の仕方については、今後検討していきたい。

○ICT機器を用いて、児童・生徒の取組や評価などを共有したい。

言葉だけでは伝わらない。数値化したり視覚化したりして評価してほしい。

○スタンダードのブラッシュアップの方法は？

●学部長、教員が話し合いをして、追加や削除、文言の修正をしていくことになる。

○直接指導している教員の声を、一番に反映させるべき。

●今年度異動してきたが、このスタンダードを保護者や教員が大切にしていることが分かった。このスタンダードを日頃から意識して指導していきたい。

●年度末だけではなく、日々の関わりを振り返るツールとしたい。

6 各委員より挨拶

●PTA 会長をして地域や学校との交流が持てた。PTA は神奈川県に関しては今年度をもって撤退という形をとらせてもらった。今後は学校と密な形で取り組んでいきたい。教員に意見を言えるような関係になりたい。来年度は「すぐーる」を活用し、情報発信をしていってほしい。

●良い意見の交換の場になっている。今後の発展を期待している。

●☆柿祭に伺ったが、「特別ではない」という雰囲気を感じた。3階に上がると大きな窓にステンドグラスが飾られていて校内が明るかった。また、生徒が大きな声で活発に訴えるようなまなざしであったのが印象的であった。表現活動ができるのは、先生方の工夫や児童・生徒の気持ちを引き上げる指導があったからこそではないかと思っている。

7 会長の言葉

学校運営協議会は先生達を支えていく応援団である。学校を変えていくのは先生方。先生方が輝く取り組みにしたい。

8 校長の言葉

活発な意見交換感謝している。学校運営のための活発な意見交換ができた。ご意見受け止めながらできることに取り組んでいきたい。現在、県全体が DX 化を進めている。家庭との連絡システムや校務支援システムが導入される。慣れないうちは大変だが、使い慣れていけば楽になるはずである。GPS については、本校ではないが先日の雪でスクールバスが動かず、4 時間乗車したというケースがあった。携帯における連絡機能でのやり取りとなり、連絡に時間を要したらしい。GPS は時差があるが正確な位置情報が明確に分かる。来年度は全校配置となる。DX 化は児童・生徒の安全と教職員の働き方改革につながっている。今後も生の声をいただきながら取り組んでいきたい。

9 閉会

以上